

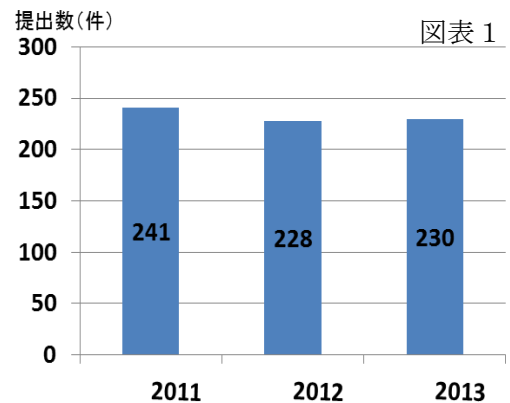
愛知医科大学 医学部 第1回教員活動状況報告書

平成27年3月

## 目次

1	評価の概況	1
2	評価項目について	1
3	自己評価の結果と課題	1
	・評価の進め方	
	・部門別領域別得点	
	・部門別得点と主な課題等	
	・領域別の課題	
4	今後の課題	4
5	まとめ	5
6	添付資料	
	・各講座、診療科等の自己評価（図表3）	
	・領域別の主な課題等（図表4）	
	・ご参考1 部門・所属一覧	
	・ご参考2 教員評価表（医学部）	

医学部 自己評価提出状況(2011~2013)



### 1 評価の概況と課題

(2011年1月1日~2013年12月31日)

(1) 自己評価の提出状況について(図表1参照)

2011年から2013年にかけて提出状況は微減傾向にあるが、3年間平均で対象教員数:369名、提出数:233名(提出率63.1%)であった。最低目標値の60%は、達成しているものの、提出率としては低く、更なる提出率の向上を目指していく。

### 2 評価項目について

本学の教員評価は、医学部及び看護学部共に基本コンセプト、評価項目のアウトライン、集計ツール等仕組みのベースを同一にした上で、詳細な評価項目等は組織実態に即して若干の相違を持ちながら進めている。ここでは、基本的な評価項目を掲載する。

(詳細は、別紙ご参考2、教員評価表を参照)

#### 【領域別評価項目】

(1) 「教育」領域

①学部学生教育、②研修医教育、③大学院教育、④教員教育(FD)、医療従事者教育、⑥その他

(2) 「研究」領域

①著書、教科書等、②原著論文、③学会報告、④受賞、⑤外部資金獲得

(3) 「組織運営」領域

①大学の委員会、②学部の委員会、③病院の委員会、④講座関係、⑤その他

(4) 「社会貢献」領域

①学内講師、②学外講師、学会役職、行政の委員、マスコミ

### 3 自己評価の結果と課題 (別紙ご参考2)

#### 【評価の進め方】

3年間の教員活動の評価は、まず各教員が「教育」「研究」「組織運営」「社会貢献」の4領域の得点を集計した。次に各講座及び診療科等の長が各教員の自己評価結果を組織単位でまとめ、総括した。

活動内容は、教員の自己評価結果を各講座及び診療科等の長が総合的に評価を行なった。

組織的には医学部73部署を①基礎科学部門、②基礎医学部門、臨床系を③内科学部門、④同外科学部門、⑤その他部門の3部門、⑥付属施設等の6部門に便宜的に分類した。

<73部署の内訳>

①基礎科学部門:一般教育科目の心理学、数学、外国語等8講座

②基礎医学部門:解剖学、生理学、生化学、薬理学等の11講座

③内科学部門:消化器内科、循環器内科、呼吸器・アレルギー内科等臨床系の内科学15講座

④外科学部門：消化器外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科等の臨床系外科学 10 講座

⑤その他部門：臨床系講座のうち内科学講座と外科学講座を除いた、臨床系講座の 11 講座と  
病院各診療科等

⑥付属施設等：メディカルクリニック、運動療育センター、総合医学研究機構、先端医学研究  
センター等（詳細は別紙ご参考 1 「部門・所属一覧」参照）

【部門別領域別得点】

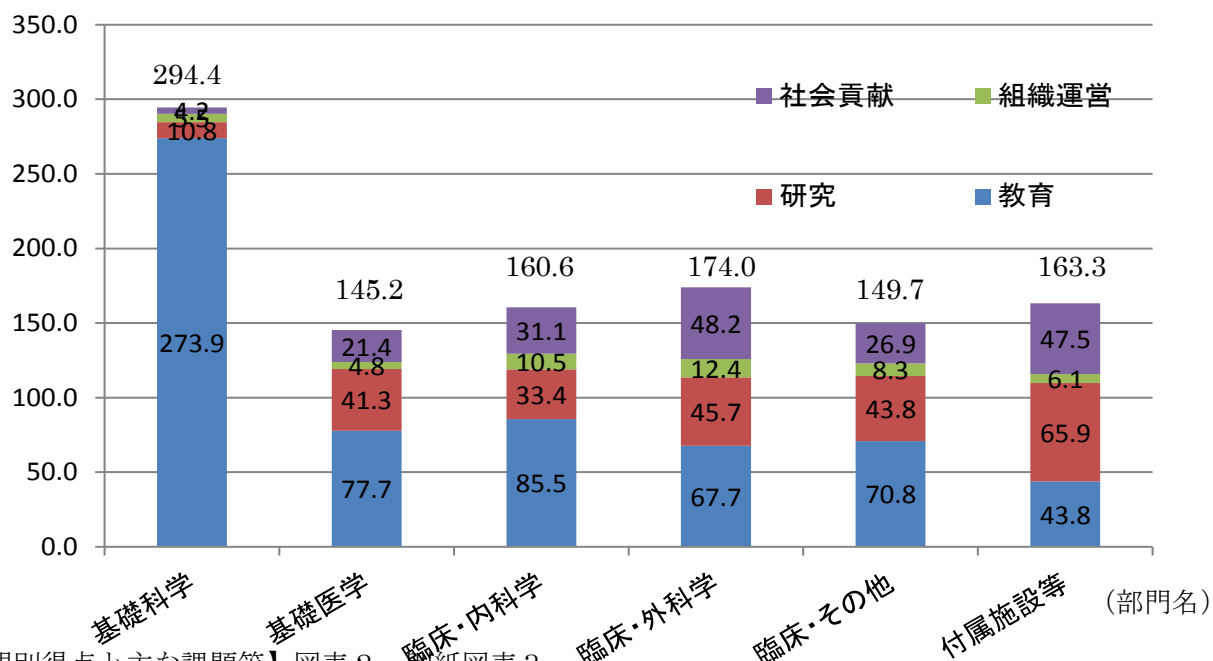
部門別領域別得点状況(3年間の平均)

図表 2

部門	教育	研究	組織運営	社会貢献	計
基礎科学	273.9	10.8	5.5	4.2	294.4
基礎医学	77.7	41.3	4.8	21.4	145.2
臨床・内科学	85.5	33.4	10.5	31.1	160.6
臨床・外科学	67.7	45.7	12.4	48.2	174.0
臨床・その他	70.8	43.8	8.3	26.9	149.7
付属施設等	43.8	65.9	6.1	47.5	163.3

部門別 領域得点状況(3年間の平均値)

図表 2



【部門別得点と主な課題等】図表 2、別紙図表 3

○基礎科学系は、他部門に比べ総得点が約 2 倍と最も高い。これは教育において講義駒数が多く高得点になっていることが主因である。今後は、講義時間だけではなく効率性や効果性にも注力していく。研究領域では更に積極的な活動を目指す講座が多く、学会発表・論文作成の活性化が期待される。組織運営・社会貢献分野も研究同様、積極的な活動が期待される。

○基礎医学系は、全得点の中では教育が 53% を占め高く反対に組織運営が低いのも特徴である。教育は個人差が大きい。平均を下回る教員には、大学院教育、教員教育、PBL への積極参加を促していく

部署が多い。研究面は、学会発表、論文作成を注力していく。組織運営・社会貢献共に若手教員には不利な分野との認識がある。

○臨床・内科学は、全得点中教育が 53%程度と最も高い。教育で平均を下回る講座は、研修医教育、BSL やクリニカルクラークシップ、FD への積極参加の推進に努力する。一方でワークバランスの考慮も指摘があった。研究は平均を大きく下回る教員の底上げ、活性化が必要。組織運営は、病院関連会議への参加を促す。

○臨床・外科学は、臨床系部門の中では合計点が一番高いことと、比較的社会貢献が高いことが特徴。また、報告書は臨床系では一番提出が少なかったことから次回以降の改善が望まれる。年齢面でみると、年長スタッフが高得点、若手が低くなる傾向があるが、若手は臨床従事時間が長いことも得点が低くなる一要因となっている。教育はスタッフ間のバラツキは少ない。

○臨床・その他は、臨床 3 部門の中では合計点が一番低いが、総じて臨床系の中でも平均的な得点状況である。教育・研究共に点が低く努力が必要との認識が多い。大学院教育、BSL、クリクラ、教員教育を積極的に促していく、また研究面では、更なる活性化と共に若手教員への学会発表や論文作成を促すとしている。組織運営では、病院関連会議への参加、社会貢献での理事・評議員・公開講座・講演を中心として後進の育成に努力するとの認識が高い。

○付属施設等は、報告のあった部署が少ないものの、研究の得点は当部門が研究センター主体の構成であることから、臨床系部門と比較して平均で 20 ポイント以上高い (図表 2)。社会貢献面も他部門に比べ 60 ポイント以上の部署が 3 部署あり全体のポイントを引き上げている。

また、診療中心の部署においてはクリクラの実施が可能な体制整備を整え、世界に発信できる質の高い研究を目指すとする研究所の取り組みもある。

#### 【領域別の課題】別紙図表 4

##### ●教育分野

得点が低いと認識している講座等では、大学院教育、教員教育、BSL、クリクラ等を加速させたいと考える講座等が 11 あり、教育分野全体意見数 35 件の約 30% に当たる。また、講義数の不均衡を是正したいとする声も 4 件と多かった。

##### ●研究分野

研究面で更に努力が必要とする講座等では、若手教員を含めて学会発表や論文作成に積極的に取り組むとする部署が多かった。

##### ●組織運営分野

この分野では、総じて得点が全体に高くないが、病院関連会議を中心に参加を促していくなど積極的な取り組みを掲げる部署が多い。同時に、若手教員には貢献が難しい、組織側からも工夫をしてほ

しいとする声など会議の効率や組織改革を望む声には検討を要すると考える。

#### ●社会貢献分野

この分野も得点が低く努力を要する、あるいは、理事、評議員、公開講座への貢献などに注力していくとする声が多かった。一方、他大学の講義委嘱が多く危惧を覚えるとの声があり組織的な管理や調整機能も必要と考える。若手教員には貢献が不利との声があるのは組織運営への貢献と同様である。

#### 4 今後の課題

講座長等による「教員活動状況報告」の中から、以上のように部門・組織面から現状の問題点を考察してきたが、組織横断的に共通する課題や今後検討が必要な課題がいくつか提示された。改めて今後の検討事項として以下のとおり問題提起としたい。

##### □教員評価活動に対し、協力体制が不十分である

度重なる自己評価の提出依頼を行っても、積極的な参加が得られない一部の教員の実態。加えて、講座長等による「教員活動状況報告書」においても一部には積極的な提出が見られない。このことは、自己評価を提出した教員個人の評価が活用されないことになり、責任者としての責任感の欠如とも考えられる残念な事態である。

原因としては、教員評価を行なうことへの必要性の理解が不足していると思われる。提出することに対してメリットが感じられない、過去を調査するなど評価手続きが煩雑で大変面倒であるなどである。丁寧な趣旨の説明や簡潔で分かりやすい制度の設計など（※1）更なる工夫や検討が必要であるが、教員評価は業務であり意識改革も併せて求めたい。

※1：定量項目の自動入力化と教員が自ら作成する分野の棲み分け、講座技術員の有効活用など

##### □評価基準やパフォーマンス測定について

講座の特徴や人員構成、組織的ニーズ、教員の年齢層や役職による機会の相違など教員を取り巻く様々な環境の中、一律な評価基準や価値では適切な評価が難しいとの意見がある。

今回の結果を踏まえ、改めて広範な議論に基づいた評価項目の検討や多様な価値観への視点が望まれていると考える。

##### □論文発表や助成金の獲得など、競争的成果について

競争的成果を上げる教員が高く評価される制度を望む意見があった。学会発表や論文作成を重点的に取り組むとの共通的な認識とも重なる、根底的な価値観であると見られる。上記評価項目の多様性を求める考えとは一線を画すものだが、併せて検討すべき課題と思われる。

##### □組織運営や社会貢献は、若手医師には貢献が難しい。

各講座とも共通的な認識であるが、今後参加へ向け促していくという講座長の声が多い。一方で、若手教員のポジションや役割面から困難さを認める声が大変多い。大学、病院など組織からの工夫、支援も検討が望まれるところである。

#### □診療業務への貢献と他業務とのバランスについて

臨床系では、診療業務への貢献と他業務とのバランスが重要である。また、人的資源が限られ人手不足であることから業務の調整、ワークシェアリング、会議回数や時間の縮減など組織としての検討も必要。

## 5 まとめ

第1回の教員評価として状況を見てきたが、今教員評価の実施目的は評価システムの有効性と実現性を検証しより本学の実態に見合った業務システムとして一歩ずつ完成度を上げていくことである。そのためには、得点の多寡を競うものではなく、全員参加型の分かりやすく、効率的な仕組みにしていくことが重要であると考えている。

今回は、教員個人の自己評価及び講座等の組織評価の提出率は60%強であるが、今後更に向上させていくことが必要である。このためには全ての教員が自己評価の意義や必要性を十分に理解し納得する必要がある。併せて、講座長等の教員活動状況報告書から見えてきた以下の課題を解決し教員評価活動を活性化させていくことによって、建学の理念の具現化を目指す。

- (1) 全員参加型でわかり易く負担の少ない仕組みの導入
- (2) 評価基準や項目に多様性確保、教員活動のコアの明確化
- (3) 人的資源の最大活用
  - 若手医師の組織・社会貢献度の検討、役割の明確化
  - 臨床技術員の活用
- (4) 組織内・外の調整機能、組織効率の改善による負担軽減
  - 重複役割や会議の統合、簡素化の推進等の検討

これら課題の解決に真摯に取り組むことにより、本学の教員活動が活性化され、本学の教育・研究活動が質的に向上していくものと考えている。

各講座、診療科等の自己評価（図表3）

	基礎科学		基礎医学		臨床・内科学		臨床・外科学		臨床・その他		付属施設等	
教育	○授業が多く高得点	4	○負担の平均化が必要である	1	○ポイント計算が正しくない教員の可能性	1	○スタッフ間のバラツキが少ない	1	○得点が低い、努力が必要	4	○積極的な展開が必要	1
	○時間だけでなく教育内容も注力する	2	○努力を要する	3	がある				○講義、大学院教育、BSL、クリクラ、	6	○クリクラの可能な体制が整った	1
	○効率的で効果のある教育が見直し、改善	1	○大学院教育、教員教育、PBL強化	3	○部門平均以下、努力を要する	2			教員教育を積極的に行う		○新たな医学教育項目「を設定し、	1
	○講義担当数の不均衡を是正する必要あり	1	○負担の平均化は困難	1	○研修医教育、大学院教育、教員教育、	2			○カリキュラムの見直し、臨床実習内容	1	貢献していく	
					BSL、クリニカルグループを促す				・方向の再検討により教員の参加を促す		○平均的、個人差が大きい	1
					○負担集中→平準化を図る	1			○負担の集中がある	1	○点数化されない反映されない面がある	1
									○積極的に今後活動する	1		
研究	○ポイントが低く努力が必要	4	○十分行っている	1	○大きく下回る教員がいる	1	○研究の低い者→学会発表、論文作成の	2	○若手にも学会発表や論文作成を促す	7	○積極的な展開が必要	1
	○学会発表、論文作成を積極的に行う	4	○学会発表、論文作成を積極的に行う	3	○能力・志の高い者への組織支援が必要	1	積み重ねが学位取得に直結することを		○得点が低い、努力が必要	7	○学会発表、論文作成を積極的に行う	1
	○臨床と協同研究を実施	1	○負担の平均化は困難	1	○活性化が課題	1	認識させる。優れた医師の育成に努めたい。		○教育主体のCで研究の向上は困難	1	○施設の性格上比重が高い	1
			○不十分、努力が必要	1	○学会発表、論文作成を積極的に行う	1			○研究面で努力、活動の活性化が必要	3	○今後も教育・研究を主体とした努力	
					○医師のリクルートを行いたい	1			○国際的に注目される医師も育てて	1	を継続する	1
									いる。若手医師の継続的に育成する		○世界に発信できる質の高い研究を目指す	1
組織	○講座に教員がいないので貢献が難しい	1	○若手教員には貢献は不利	3	○病院関連会議中心に参加を促す	2			○若手医師が委員会に参加するのは困難		○各種委員会への積極的な参加を意識	1
	○基礎医学・臨床医学とのシームレスな	1			○時間調整、ワークシェア、会議時間回数	1			、組織側の工夫を望む	1	したい	
	教育、学内活動を心がける				縮減など組織改革を行う				○病院関連委員会に積極的に参加する	4	○講座全体として低い	1
	○積極的に参画中	2							○若手医師に委員会担当を促す	1		
	○組織運営と社会貢献の責任をバランス	1							○組織運営を考えるよう意識改革中	1		
	よく果たしていく											
社会貢献	○積極的に行いたい	2	○若手教員には貢献不利	1	○教育・研究連携や医療連携などに努力	1			○理事、評議員、公開講座、講演を中心	4	部門平均のおよそ5分の1と低い、努力要	
	○市民講座等実施中	1	○他大学の講義委嘱が多く危惧される	1					として、後進の育成、貢献に努力する。			
									○得点が低い	3		
									○地域連携で積極的に参加していく	1		
その他			○競争的成果（論文発表、助成金獲得）	1	○督促しても提出しない教員	2	○年長スタッフは点が高く、若手は低い。	1	○組織の配置が1名は異常（少ない）	1	○センターの存在意義・機能を真剣に	1
			が評価される制度を望む		○多大な診療業務とのバランスを保つこ	1	若手は臨床に従事する時間が長い		○産休による欠員補充・増員が課題。	1	議論し、抜本的な改革が必要	
			○督促しても提出しない教員	1	とが重要である。		○医局内のポジションのステップアップ	1	○提出率が低い、来期の課題	1	○全領域で低調であった	1
			○個々に目標をかかげさせ教員の意識を	1	○教員の特性を考慮、領域別に期待値を	1	に合わせて、指導していく。		○臨床的研究の体制強化を実施	1		
			高める必要がある		丁寧に設定する。		○若手医師が積極的に貢献できる場を	1	○他施設共同研究への参画	1		
							提供する		○研究専念期間の導入	1		
									○教育・研究連携や医療連携で貢献、	2		
									努力する。			
									○督促しても提出しない教員がいる	1		



## 領域別の主な課題等（図表4）

教育分野	頻度	累計	占有率
大学院教育、教員教育、BSL、クリニック等を促す	11	11	31.4%
得点が低い、努力が必要である	9	20	57.1%
授業が多く高得点になっている	4	24	68.6%
講義担当数の不均衡を是正する必要がある	4	28	80.0%
教育内容も注力していく	2	30	85.7%
負担の平均化は困難	1	31	88.6%
スタッフ間のバラツキが少ない	1	32	91.4%
カリキュラム、臨床実習の再検討で教員の参加を促す	1	33	94.3%
積極的な展開が必要	1	34	97.1%
新たな医学教育項目を設定し貢献していく	1	35	100.0%
計	35	35	100.0%

研究分野	頻度	累計	占有率
得点が低い、努力が必要である	16	16	36.4%
学会発表、論文作成を積極的に行う	11	27	61.4%
若手教員にも学会発表、論文作成を促す	7	34	77.3%
研究が今は十分にできている	1	35	79.5%
負担の平均化は困難	1	36	81.8%
得点が大きく下回る教員がいる	1	37	84.1%
能力、志の高い者には支援が必要	1	38	86.4%
臨床と協同研究を行っていく	1	39	88.6%
教育主体のセンターであり研究の向上は困難	1	40	90.9%
国際的に通用する人材の育成を継続する	1	41	93.2%
積極的な展開が必要	1	42	95.5%
教育研究主体とした努力を継続していく	1	43	97.7%
世界に通用する質の高い研究を目指す	1	44	100.0%
計	44	44	100.0%

組織運営	頻度	累計	占有率
病院関連会議中心に参加を促す	7	7	36.8%
若手教員には貢献は不利	3	10	52.6%
積極的に参加中	2	12	63.2%
講座に教員がいないので貢献が難しい	1	13	68.4%
基礎医学、臨床医学との教育、学内連携を心がける	1	14	73.7%
組織運営と社会貢献の責任をバランスよく果たしていく	1	15	78.9%
時間調整、ワークシェア、会議縮減など組織改革を行う	1	16	84.2%
若手医師が委員会に参加するのは困難、組織側の工夫を望む	1	17	89.5%
組織運営を考えるよう意識改革中	1	18	94.7%
各種委員会への積極的な参加を意識したい	1	19	100.0%
計	19	19	100.0%

社会貢献	頻度	累計	占有率
理事、評議員、公開講座、講演等への貢献、後進育成に努力	4	4	26.7%
得点が低い、努力が必要	4	8	53.3%
積極的に行いたい	2	10	66.7%
市民講座等実施中	1	11	73.3%
若手教員には貢献は不利	1	12	80.0%
他大学の講義委嘱が多く危惧される	1	13	86.7%
教育・研究連携や医療連携などに努力していく	1	14	93.3%
部門平均に比べかなり高い上、高い外部評価を獲得してる	1	15	100.0%
計	15	15	100.0%

その他	頻度	累計	占有率
督促しても提出しない教員がいる	4	4	23.5%
教育・研究連携や医療連携で貢献	2	6	35.3%
競争的成果が評価される制度を望む（論文発表、助成金獲得）	1	7	41.2%
個々に目標を掲げさせ教員の意識を高める必要がある	1	8	47.1%
多大な診療業務とのバランスを保つことが課題	1	9	52.9%
教員の特性を考慮、領域別に期待値を丁寧に設定する	1	10	58.8%
年長スタッフは点が高く、若手は低い	1	11	64.7%
若手医師が積極的に貢献できる場を提供する	1	12	70.6%
提出率が低い、来期の課題	1	13	76.5%
産休等の欠員補充が課題	1	14	82.4%
他施設共同研究への参画	1	15	88.2%
センターの存在意義・機能を真剣に議論し抜本的改革が必要	1	16	94.1%
多種多様な業務を実施中、評価項目の検討を望む	1	17	100.0%
計	17	17	100.0%

部門・所属一覧

別紙ご参考1

部門	所属
基礎科学	<基礎科学>一般教育科目心理学
	<基礎科学>一般教育科目数学
	<基礎科学>一般教育科目物理学
	<基礎科学>一般教育科目化学
	<基礎科学>一般教育科目生物学
	<基礎科学>外国語科目外国語
	<基礎科学>一般教育科目哲学
	<基礎科学>保健体育科目保健体育

部門	所属
基礎医学	<基礎医学>解剖学
	<基礎医学>生理学
	<基礎医学>生化学
	<基礎医学>薬理学
	<基礎医学>病理学
	<基礎医学>感染・免疫学
	<基礎医学>衛生学
	<基礎医学>公衆衛生学
	<基礎医学>法医学
	<基礎医学>微生物・免疫学
	<基礎医学>寄生虫学

部門	所属
臨床・内科学	内科学(消化器内科)
	内科学(循環器内科)
	内科学(呼吸器・アレルギー内科)
	内科学(内分泌・代謝内科)
	内科学(神経内科)
	内科学(腎臓・リウマチ膠原病内科)
	内科学(血液内科)
	内科学(糖尿病内科)
	病院消化器内科
	病院循環器内科
	病院呼吸器・アレルギー内科
	病院神経内科
	病院腎臓・リウマチ膠原病内科
	病院血液内科
	病院内分泌・代謝内科

部門	所属
臨床・外科学	外科学(消化器外科)
	外科学(呼吸器外科)
	外科学(乳腺・内分泌外科)
	外科学(心臓外科)
	外科学(血管外科)
	病院消化器外科
	病院心臓外科
	病院血管外科
	病院乳腺・内分泌外科
	病院呼吸器外科

部門	所属
臨床・その他	<臨床医学>精神科学
	<臨床医学>小児科学
	<臨床医学>脳神経外科学
	<臨床医学>整形外科
	<臨床医学>皮膚科学
	<臨床医学>泌尿器科学
	<臨床医学>眼科学
	<臨床医学>耳鼻咽喉科学
	<臨床医学>産婦人科学
	<臨床医学>放射線医学
	<臨床医学>麻酔科学
	病院精神神経科
	病院小児科
	病院脳神経外科
	病院整形外科
	病院皮膚科
	病院泌尿器科
	病院眼科
	病院耳鼻咽喉科
	病院産科・婦人科
	病院放射線科
	病院麻酔科
	病院総合診療科
	病院形成外科
	病院救命救急科
	病院リハビリテーション科
	病院睡眠科
	病院感染症科
	病院歯科口腔外科
	病院医療情報部
	病院病理部
	化学療法センター
	感染制御部
	周術期集中治療部
	生殖・周産期母子医療センター
	脊椎脊髄センター
	卒後臨床研修センター
	中央手術部
	中央臨床検査部
	中央臨床検査部管理室
	糖尿病センター
	脳卒中センター
	薬剤部
	輸血部
	臨床研究支援部門
	臨床腫瘍センター

部門	所属
付属施設等	メディカルクリニック
	運動療育センター
	学際的痛みセンター
	医学教育センター
	総合医学研究機構動物実験部門
	高度研究機器部門
	先端医学研究センター
	加齢医科学研究所
	加齢医科学研究所神経病理部門
	分子医科学研究所
	分子医科学研究所第一部門
	産業保健科学センター
	総合医学研究機構
	総合医学研究機構医学部先端医学

## 教員評価表（医学部）

ご参考2

所属	職名	職員番号	氏名	提出期限
医学部	ダミー	a99999	愛知 太郎	2013/2/28

領域	2011	2012	2013	合計
1 教育	0	0	0	0
2 研究	0	0	0	0
3 組織運営	0	0	0	0
4 社会貢献	0	0	0	0
総合ポイント	0	0	0	0

領域合計点へ	1教育	基準単位	ポイント		2011	2012	2013	小計
	(1) 学生教育							
	(a) 通常講義	1コマ	2	件数	0	0	0	0
		コーディネーター	5	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(b) 総合医学	1コマ	2	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(c) 留年生補習講義	1コマ	2	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(d) 他の学部/大学の講義	1コマ (学内)	2	件数	0	0	0	0
		1大学 (学外)	4	件数	0	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0
	(e) チュートリアル	参加1回	2	件数	0	0	0	0
		シナリオ作成・BU	10	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(f) 基礎実習	1回/日	1	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(g) BSL	1週間以上/年	40	件数	0	0	0	0
		1週間未満/年	20	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(h) クリクラ	1名	5	人数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(i) OSCE	評価者/station	5	件数	0	0	0	0
		学内・学外共通		ポイント計	0	0	0	0
	(j) CBT	問題作成	5	件数	0	0	0	0
		ブラッシュアップ(BU)	10	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(k) 卒業試験	問題作成	5	件数	0	0	0	0
		ブラッシュアップ	15	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(1) 入学試験	問題作成	20	件数	0	0	0	0
		採点	10	件数	0	0	0	0
		面接/回	5	件数	0	0	0	0
		監督/回	5	件数	0	0	0	0
				ポイント計	0	0	0	0
	(2) 研修医教育	1名	1	件数	0	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0
	(3) 大学院教育	直接指導/1名	10	件数	0	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0
	(4) 教員教育 (FD)	タスクフォース/回	5	件数	0	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0
	(5) 医療従事者教育	講義/回	5	件数	0	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0
	(6) その他	具体的に記載	5	件数	0	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0
				ポイント合計	0	0	0	0

領域合計点へ	2研究	基準単位	単位ポイント		2011	2012	2013	小計
	(1) 著書, 教科書等		点/冊					
	(a) 著書・教科書 (説明参照)	英文	15	件数	0	0	0	0
		和文	10	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(1)-(a)		ポイント計	0	0	0	0
	(b) 参考書等 (説明参照)	英文	10	件数	0	0	0	0
		和文	5	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(1)-(b)		ポイント計	0	0	0	0
	(c) その他 (説明参照)		3	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(1)-(c)		ポイント計	0	0	0	0
				ポイント小計	0	0	0	0
	(2) 原著論文	インパクトファクターの調べ方	1編当たり					
	(a) 欧文誌 1	IF $\geq$ 5 1st/2nd/correspond	15	件数	0	0	0	0
	Web of science ID または PubMedに掲載されている論文	IF $\geq$ 5 others	3	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(2)-(a)-1		ポイント計	0	0	0	0
		IF $\geq$ 1 1st/2nd/correspond	10	件数	0	0	0	0
		IF $\geq$ 1 others	2	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(2)-(a)-2		ポイント計	0	0	0	0
		IF $<$ 1 1st/2nd/correspond	5	件数	0	0	0	0
		IF $<$ 1 others	1	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(2)-(a)-3		ポイント計	0	0	0	0
		IFなし 1stのみ	3	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(2)-(a)-4		ポイント計	0	0	0	0
	(b) 欧文誌 2	1stのみ評価	3	件数	0	0	0	0
	上記以外の論文	提出資料記号 2-(2)-(b)		ポイント計	0	0	0	0
	(c) 和文誌 1	学会誌などで筆頭者のみ評価	2	件数	0	0	0	0
	医中誌に掲載されている論文	提出資料記号 2-(2)-(c)-1		ポイント計	0	0	0	0
		その他で筆頭者のみ評価	1	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(2)-(c)-2		ポイント計	0	0	0	0
	(d) 和文誌 2	筆頭者のみ評価	1	件数	0	0	0	0
	上記以外の論文 研究報告書などもここに記載	提出資料記号 2-(2)-(d)		ポイント計	0	0	0	0
				ポイント小計	0	0	0	0
	(3) 学会報告							
	(a) 国際学会	特別講演演者	20	件数	0	0	0	0
		特別講演座長	10	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(a)-1		ポイント計	0	0	0	0
		シンポジウム演者	15	件数	0	0	0	0
		シンポジウム座長	10	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(a)-2		ポイント計	0	0	0	0
		一般口演演者	10	件数	0	0	0	0
		一般口演座長	5	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(a)-3		ポイント計	0	0	0	0
		ポスター発表者	2	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(a)-4		ポイント計	0	0	0	0
	(b) 国内学会	特別講演演者	15	件数	0	0	0	0
		特別講演座長	10	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(b)-1		ポイント計	0	0	0	0
		シンポジウム演者	10	件数	0	0	0	0
		シンポジウム座長	10	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(b)-2		ポイント計	0	0	0	0
		一般口演演者	5	件数	0	0	0	0
		一般口演座長	3	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(b)-3		ポイント計	0	0	0	0
		ポスター発表者	1	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(b)-4		ポイント計	0	0	0	0
	(c) 地方会レベル	特別講演演者	5	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(c)-1		ポイント計	0	0	0	0
		シンポジウム演者	3	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(c)-2		ポイント計	0	0	0	0
		一般口演演者	1	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(c)-3		ポイント計	0	0	0	0
	(d) 研究会レベル	特別講演演者	3	件数	0	0	0	0
		一般発表演者	1	件数	0	0	0	0
		提出資料記号 2-(3)-(d)		ポイント計	0	0	0	0
				ポイント小計	0	0	0	0

(4) 受賞							
(a) 全国レベル	国際レベルに匹敵	50	件数	0	0	0	0
	上記以外	30	件数	0	0	0	0
	提出資料記号 2-(4)-(a)		ポイント計	0	0	0	0
(b) 地方レベル	地方でトップクラスの賞	30	件数	0	0	0	0
	上記以外	10	件数	0	0	0	0
	提出資料記号 2-(4)-(b)		ポイント計	0	0	0	0
(c) 学会関係	学会で優れた功績を顕彰	20	件数	0	0	0	0
	最優秀演題	10	件数	0	0	0	0
	優秀演題	5	件数	0	0	0	0
	提出資料記号 2-(4)-(c)		ポイント計	0	0	0	0
(d) その他		10	件数	0	0	0	0
	提出資料記号 2-(4)-(d)		ポイント計	0	0	0	0
			ポイント小計	0	0	0	0
(5) 外部資金獲得	研究費(継続年もカウントする)	点/件					
	公的機関の研究助成金 代表	30	件数	0	0	0	0
	科研/厚労科研/文科省など 分担	10	件数	0	0	0	0
	提出資料記号 2-(5)-1		ポイント計	0	0	0	0
(代表のみ評価)	財団・NPOなどの研究助成金 代表	10	件数	0	0	0	0
	提出資料記号 2-(5)-2		ポイント計	0	0	0	0
	企業との受託・共同研究/件	10	件数	0	0	0	0
	提出資料記号 2-(5)-3		ポイント計	0	0	0	0
			ポイント小計	0	0	0	0
			ポイント合計	0	0	0	0

領域合計点へ	3組織運営	基準単位	単位ポイント		2011	2012	2013	小計
	委員会名簿参照 (アクセスコード:0123)	1年間	1委員会あたり					
(1) 大学の委員会	委員	2	件数	0	0	0	0	0
	委員長	5	件数	0	0	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0	0
(2) 学部の委員会	委員	2	件数	0	0	0	0	0
	委員長	5	件数	0	0	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0	0
(3) 病院の委員会	委員	2	件数	0	0	0	0	0
	委員長	5	件数	0	0	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0	0
(4) 講座関係	医局長・講座長病棟・外来医長	5	件数	0	0	0	0	0
			ポイント計	0	0	0	0	0
(5) その他	具体的に	5	件数	0	0	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0	0	0
			ポイント合計	0	0	0	0	0

領域合計点へ	4 社会貢献	基準単位	単位ポイント	2011	2012	2013	小計
	(1) 学内		点/回				
		公開講座講師	5	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		新入生ガイダンス講師	5	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		その他のイベントの講師	5	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	(2) 学外	役職/年	点/役				
		公開講座講師	10	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	(a) 国際または全国規模の学会	理事・監事	20	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		評議員・代議員・幹事	10	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		大会長	20	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		その他	10	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	(b) 地方会レベルの学会	理事・監事	10	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		評議員・代議員・幹事	5	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		大会長	10	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	(c) 行政	国	委員会などの委員	10	件数	0	0
		自治体	委員会などの委員	5	件数	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
		その他	10	件数	0	0	0
		(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	(d) マスコミ	新聞・TV報道	全国レベル	20	件数	0	0
			地方レベル	10	件数	0	0
		提出資料記号 4-(2)-(d)-1		ポイント計	0	0	0
	交流	教育・研究連携	5	件数	0	0	0
		医療連携	5	件数	0	0	0
		提出資料記号 4-(2)-(d)-2		ポイント計	0	0	0
			ポイント合計	0	0	0	0